



江刺金札米 特別栽培米栽培暦

(減農薬・減化学肥料)

令和6年産

目 標		1等米比率100%、整粒歩合80%以上、タンパク質含有率6.0%以下																										
種子及び対象品種		生育目標指標 (目標収量540kg/10a)						江刺金札米の土づくりについて																				
1. 種子 全量種子更新	2. 品種 ひとめぼれ	栽植密度 (株/坪)	中干し開始 m差数 (本)	最高分げつ m差数 (本)	m穂数 (本)	1穂粒数 (粒)	登熟歩合	土づくりと基肥が 同時施用できる省力的な 土づくり	稲わら + 金札有機入り春専用レギュラー 金札有機入り春専用一発						稲わら + 金札春一番 (春施用)・秋一番 (秋施用) 金札フジクオー (秋施用)													
			320~350	480~530	400~440	61~71			85~90%	稲わら + 金札春一番 (春施用)・秋一番 (秋施用) 金札フジクオー (秋施用)						稲わら + 金札春一番 (春施用)・秋一番 (秋施用) 金札フジクオー (秋施用)												
		1株あたり							堆肥施用とあわせて 土づくり	堆肥 + 金札エネルギー																		
		70	17	25	21	稲わら + 金札春一番 (春施用)・秋一番 (秋施用) 金札フジクオー (秋施用)																						
		60	18	28	23	稲わら + 金札春一番 (春施用)・秋一番 (秋施用) 金札フジクオー (秋施用)																						
55	20	29	25	稲わら + 金札春一番 (春施用)・秋一番 (秋施用) 金札フジクオー (秋施用)																								
50	21	32	26	稲わら + 金札春一番 (春施用)・秋一番 (秋施用) 金札フジクオー (秋施用)																								
作業内容等		4 月			5 月			6 月			7 月			8 月			9 月			10 月								
生育ステージ		播種・育苗			田植え			有効分げつ期			無効分げつ期			幼穂形成期			減数分裂期			出穂期			登熟期			成熟期		
水 管 理		畦畔の整備・補修 (環境保全)			水深6~10cm (低温から稲を守る)			3cm前後 (生育促進)			中干し 溝切り			間断灌水 (徐々に深水)			15cm前後 (低温から幼穂を守る)			高温の場合は、地温を下げる水管理 (夜間かんがいや水の入れ替え頻度を増やす等)			開花期 (浅水)			間断灌水 (徐々に落水期間を長く)		
地域一斉草刈り		カメムシふ化盛期前後 (5月中下旬)						イネ科雑草が出穂する前にこまめに実施						水稲の出穂10~15日前						本田にカメムシを追い込む可能性があるため控える								
作 業 内 容		播 種		代かき		田植え		中干し・溝切り			追肥			落 水 (出穂30~40日後)			収 穫			秋 耕								
農薬防除体系		[種子消毒] 消毒済み種子を配布			[箱施用剤] [初中期一発除草剤]			[中期除草剤]			[いもち病予防剤]			[カメムシ防除剤] ※1回防除														
肥 培 管 理		雑 草 防 除						病 害 虫 防 除						収 穫 ・ 乾 燥														
1. 施 肥		1. 耕種的防除						1. 耕種的防除						1. 適期刈り取りの励行														
肥料名		○畦畔整備・補修による農薬等の流出防止。 ○代かき~田植えまでの日数は4日以内とする。						○カビ・細菌病 出芽温度を28~30℃を目安にする。 ○いもち病：取置き苗除去の徹底。 ○カメムシ対策 ①越冬世代幼虫密度低減のため、6月上旬までに畦畔草刈りをする。 ②水田雑草のノビエ・シズイ・ホタルイ類の防除を徹底する。 ③水稲の出穂2週間前までに畦畔雑草及び牧草の刈り取りを行う。						○バインダー刈り 適期は80~90%が黄化、または穂軸の1/3が黄化。 ○コンバイン刈り 籾の85%以上が黄化。 ★高水分状態 (降雨直後、降水中) での収穫は極力避ける。 ★刈り取り晩限はバインダー、コンバインともに、出穂後積算平均気温で1,050℃を目安にする。														
施用量 (窒素成分) kg/10a		2. 薬剤防除						2. 薬剤防除						2. 乾 燥														
新・金札ひとめぼれ		各剤とも使用上の注意を守り、適期散布しましょう。						2. 薬剤防除						2. 乾 燥														
金札有機入りひとめぼれ		薬 剤 名						○種子伝染性病害防除 薬剤名：タフブロックSP (種子消毒済) 浸種は水温12~15℃、期間は7~10日、催芽は30℃で24時間を目安に実施。 育苗期間中は10℃以下にならないよう管理。						2. 乾 燥														
金札有機入り春専用レギュラー		散 布 時 期						○葉いもち+初期害虫防除 薬剤名：Dr. オリゼリディア箱粒剤 移植3日前~移植当日 (散布後十分に散水)、側条施用可						2. 乾 燥														
有機プレーバーペースト734		散 布 方 法						○穂いもち防除 薬剤名：コロトップ (予防剤) 出穂30~5日前、湛水散布 例年いもち病が発生しやすい圃場は必ず散布しましょう。						2. 乾 燥														
コーペースト222P		中干し・溝切り						○カメムシ防除……キラップ (1回防除) 発生源である本田内の雑草をなくし、出穂10日前の水田畦畔及び周辺の草刈りとあわせての薬剤防除が効果的です。						2. 乾 燥														
金札追肥		追 肥						○いもち病予防剤						2. 乾 燥														
金札有機入りひとめぼれ一発		1 (右記3種類の中から) 中後期剤 ※選択制						[いもち病予防剤]						2. 乾 燥														
金札有機入り春専用一発		1 (右記3種類の中から) 中後期剤 ※選択制						[いもち病予防剤]						2. 乾 燥														
※窒素成分のうち50%の有機態窒素を含む。		1 (右記3種類の中から) 中後期剤 ※選択制						[いもち病予防剤]						2. 乾 燥														
●堆肥を1.5t/10a以上投入する場合、堆肥1t当たり基肥窒素を1kg程度減肥すること。		1 (右記3種類の中から) 中後期剤 ※選択制						[いもち病予防剤]						2. 乾 燥														
●食味の低下を防ぐため、減数分裂期後の追肥はしない。		1 (右記3種類の中から) 中後期剤 ※選択制						[いもち病予防剤]						2. 乾 燥														

農薬を散布するときは、これまで以上に注意を!!

農薬の使用法を守り、散布履歴の記帳を徹底する



農薬の使用前には、使ってよい作物や使用量、濃度、使用時期、総使用回数などを農薬ラベルで確認し、これらを守ることが基本です。
 散布後には、使用した農薬名や散布した量などを記帳しておきます。記帳することで成分ごとの使用回数や安全日数の確認が容易になり、また、使用基準を守っているかの証明にもなります。



特に「ドリフト」は注意



江刺金札米 特別栽培米栽培暦

(減農薬・減化学肥料)

令和6年産 (品種切替用)

目 標		1等米比率100%、整粒歩合80%以上、タンパク質含有率6.0%以下																										
種子及び対象品種		生育目標指標 (目標収量540kg/10a)									江刺金札米の土づくりについて																	
1. 種子 全量種子更新	2. 品 種 銀河のしずく	栽培 密度 (株/坪)	中干し開始 m差数 (本)	最高分げつ m差数 (本)	m穂数 (本)	1穂粒数 (粒)	登熟歩合	土づくりと基肥が 同時施用できる省力的な 土づくり		稲わら + 金札有機入り春専用レギュラー		稲わら + 金札有機入り春専用一発		稲わら + 金札春一番 (春施用)・秋一番 (秋施用)		稲わら + 金札フジクオー (秋施用)		堆肥施用とあわせた 土づくり		堆肥 + 金札エネルギー								
			310~ 345	470~ 515	390~ 430	62~ 70				80~100kg/10a 100~120kg/10a	50kg/10a 45kg/10a	40kg/10a																
			1株あたり																									
70	16	24	20	90%																								
60	19	28	24																									
作業内容等		4 月			5 月			6 月			7 月			8 月			9 月			10 月								
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬						
生育ステージ		播種・育苗			田植え			有効分げつ期			無効分げつ期			幼穂形成期			減数分裂期			出穂期			登熟期			成熟期		
水 管 理		畦畔の整備・補修 (環境保全)			水深6~10cm (低温から稲を守る)			3cm前後 (生育促進)			中干し 溝切り			間断灌水 (徐々に深水)			15cm前後 (低温から稲を守る)			高温の場合は、地温を下げる水管理をしましょう (夜間かんがいや水の入替え頻度を増やす等) 開花期 (浅水)			間断灌水 (徐々に落水期間を長く)					
地域一斉草刈り		カメムシふ化盛期前後 (5月中下旬)						イネ科雑草が出穂する前にこまめに実施						水稲の出穂10~15日前			本田にカメムシを追い込む可能性があるため控える											
作 業 内 容		播 種		代かき		田植え		中干し・溝切り			追肥			落 水 (出穂30日後)			収 穫			秋 耕								
		基肥散布・耕起																		土づくり資材散布								
		・作土深は15cm確保		・高温障害回避のため 早期移植は控える				・目標穂数の8割を確 保したら (目安は田 植え後30日)、期間 は14日間程度実施						・カメムシ防除は畦畔 や周辺の除草を徹底 し、穂揃いから1週 間後までに実施			・積算気温950~ 1,050℃を目安に 籾の黄化割合で判 断し、適期収穫			・稲わらの分解促進 のためできるだけ 早い時期に耕起								
農薬防除体系		[種子消毒] 浸種の最終日 24時間浸漬		[箱施用剤] [初期除草剤] 田植え直後 [初中期一発除草剤] 初期剤散布 10~20日後		[中期除草剤]			[いもち病予防剤] 葉いもちが発生しなかつた 場合は無防除可能			[カメムシ防除剤] ※1回防除																
肥 培 管 理				雑 草 防 除				病 害 虫 防 除				収 穫 ・ 乾 燥																
1. 施 肥				1. 耕種的防除				1. 耕種的防除				1. 適期刈り取りの励行																
肥料名				○畦畔整備・補修による農薬等の流出防止。 ○代かき~田植えまでの日数は4日以内とする。				○カビ・細菌病 出芽温度を28~30℃を目安にする。 ○いもち病：取置き苗除去の徹底。 ○カメムシ対策 ①越冬世代幼虫密度低減のため、6月上旬ま でに畦畔草刈りをする。 ②水田雑草のノビエ・シズイ・ホタルイ類の 防除を徹底する。 ③水稲の出穂2週間前までに畦畔雑草及び牧 草の刈り取りを行う。				○バインダー刈り 適期は80~90%が黄化、または穂軸の 1/3が黄化。 ○コンバイン刈り 籾の85%以上が黄化。 ★高水分状態 (降雨直後、降水中) での収穫は 極力避ける。 ★刈り取り晩限はバインダー、コンバインと もに、出穂後積算平均気温で1,050℃を 目安にする。																
2. 薬剤防除				2. 薬剤防除				2. 薬剤防除				2. 乾燥																
各剤とも使用上の注意を守り、適期散布しましょう。				各剤とも使用上の注意を守り、適期散布しましょう。				各剤とも使用上の注意を守り、適期散布しましょう。				各剤とも使用上の注意を守り、適期散布しましょう。																
薬 剤 名				薬 剤 名				薬 剤 名				薬 剤 名																
散布時期				散布時期				散布時期				散布時期																
散布方法				散布方法				散布方法				散布方法																
初期剤				初期剤				初期剤				初期剤																
中初期剤				中初期剤				中初期剤				中初期剤																
1発剤				1発剤				1発剤				1発剤																
中後期剤				中後期剤				中後期剤				中後期剤																
3種類の中 から1剤を 選択して 散布				3種類の中 から1剤を 選択して 散布				3種類の中 から1剤を 選択して 散布				3種類の中 から1剤を 選択して 散布																
※窒素成分のうち50%の有機態窒素を含む。				※窒素成分のうち50%の有機態窒素を含む。				※窒素成分のうち50%の有機態窒素を含む。				※窒素成分のうち50%の有機態窒素を含む。																
●堆肥を1.5t/10a以上投入する 場合、堆肥1t当たり基肥窒素を 1kg程度減肥すること。				●堆肥を1.5t/10a以上投入する 場合、堆肥1t当たり基肥窒素を 1kg程度減肥すること。				●堆肥を1.5t/10a以上投入する 場合、堆肥1t当たり基肥窒素を 1kg程度減肥すること。				●堆肥を1.5t/10a以上投入する 場合、堆肥1t当たり基肥窒素を 1kg程度減肥すること。																
●食味の低下を防ぐため、減数分裂 期後の追肥はしない。				●食味の低下を防ぐため、減数分裂 期後の追肥はしない。				●食味の低下を防ぐため、減数分裂 期後の追肥はしない。				●食味の低下を防ぐため、減数分裂 期後の追肥はしない。																

農薬を散布するときは、これまで以上に注意を!!

農薬の使用法を守り、散布履歴の記帳を徹底する

農薬の使用前には、使ってよい作物や使用量、濃度、使用
 時期、総使用回数などを農薬ラベルで確認し、これらを守る
 ことが基本です。

散布後には、使用した農薬名や散布した量などを記帳して
 おきます。記帳することで成分ごとの使用回数や安全日数の
 確認が容易になり、また、使用基準を守っているかの証明に
 もなります。

